

平成26年度 事務事業評価シート

事務事業名		学童服等支給				所管	福祉部	
							保護課	
事務事業の概要	行政計画	なし	事業NO.		計画事業名			
	長期総合計画体系	[基本目標]					事業の開始・終了年度	
		[小柱]					[事業開始] 昭和 4 4 年度	
		[施策]					[終了予定] - 年度	
	根拠法令等	その他		[法令等名]	なし			
	事業対象	被保護世帯の児童・生徒						
	事業目的	被保護世帯の児童・生徒の修学を奨励し、被保護世帯の自立を助長する。						
	事業内容	通学服、運動衣購入費を被保護者に支給する。						
	委託の有無	なし	委託内容					
補助金の有無	なし							
事務事業の実績	種別	指標の名称 (単位)		目標値 (27年度)	23年度	24年度	25年度	
	活動指標	月平均居宅被保護世帯数	世帯	4,000	3,636	3,786	3,850	
		対象世帯数	世帯	94	78	86	91	
	成果指標	支給者数	人	219	189	192	211	
	決算額 (単位：千円)				1,423	1,416	1,552	
	事務事業コスト (単位：千円)	人にかかるコスト (人件費など)			1,800	1,666	1,573	
		物にかかるコスト (物件費・維持補修費)			7	9	7	
		その他のコスト (扶助費・補助費など)			1,417	1,418	1,544	
		総経費			3,224	3,093	3,124	
	財源項目 (単位：千円)	受益者負担額 (使用料・手数料・負担金など)			0	0	0	
その他特定財源 (国や都の支出金・財産収入など)			0	0	0			
一般財源 (区負担額)			3,224	3,083	3,124			
前年度から改善した事項		適正な事業運営に努めた。						
評価の視点		評価	評価の理由					
	必要性	3	被保護世帯は、経済的に困窮しており、児童・生徒の心身の健全な育成と自立助長のために必要である。					
	効率性	3	支給額以外のコストを最小限に抑え、効率的な事業運営に努めている。					
	手段の適切性	4	現物支給も考えられるが、児童・生徒の嗜好は多様であり、現金支給の手段は適切と思われる。					
	目的達成度	3	被保護世帯の児童・生徒の修学を奨励し、被保護世帯の自立を助長する目的はおおむね達成されている。					
[評価の理由] (区民生活への影響を十分考慮すること)					評価結果	今後の方向性	拡大 改善 維持 縮小 廃止・終了	
本事業を実施しない場合、最低生活を営むための生活費から当該費用を負担しなければならず、被保護世帯の家計への影響は大きい。また、貧困の連鎖を防止する目的からも、被保護世帯の児童・生徒への支援は必要である。						維持		